

木材製品の荷動き・価格先行き動向調査(12月分)

(財)日本木材総合情報センター
TEL:03-3816-5595 FAX:3816-5062

1. 調査実施期間 平成14年 11月20日 ~ 12月10日

2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の流通企業(問屋、仲買・小売商)に対し、FAXによりアンケート調査票を送受することにより実施した。

12月分の回答企業数は26社。回収率は20%である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した

Weight. D. I. (ウェイト・ディフュージョン・インデックス) = {(「増加」の評価を行った回答の割合) × 2 + (「やや増加」の評価を行った回答の割合) - (「減少」の評価を行った回答の割合) × 2 - (「やや減少」の評価を行った回答の割合)} ÷ 2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

1) 荷動き動向

表-1 荷動き Weight. D. I.

		12月	15/1月	2月
仕入動向	国産材	4.8	26.2	11.9
	外材	7.1	16.7	21.4
販売動向	国産材	7.1	28.6	19.0
	外材	13.6	18.2	6.8
在庫動向	国産材	11.4	13.6	13.6
	外材	11.9	14.3	16.7

合板は、型枠合板、針葉樹合板とも前回同様、マイナス基調である。

販売状況判断もマイナス基調である。先行き外材に比べ国産材のマイナス幅が大きくなっている。

在庫状況判断も引き続きマイナスである。

2) 価格動向

表-2 価格 Weight. D. I.

品目	12月	15/1月	2月
スギ正角(グリーン)	3.1	3.1	6.3
スギ正角(KD)	20.0	6.7	6.7
ヒノキ正角	9.4	6.3	3.1
ヒノキ土台角	6.3	3.1	3.1
米ツガ正角(現地挽)	5.6	5.6	5.6
米ツガ防腐土台角	0.0	4.5	4.5
米ツガ割物(現地挽)	5.0	0.0	5.0
米マツ平角	0.0	0.0	0.0
北洋アカマツタルキ(現地挽)	23.1	11.5	7.7
ホワイトウッド集成管柱	15.0	10.0	20.0
レッドウッド集成平角	6.3	0.0	6.3
型枠合板(国産)	22.2	22.2	16.7
型枠合板(輸入)	25.0	29.2	20.8
針葉樹合板	20.0	20.0	10.0

国産材はスギ、ヒノキ製品とも、ややプラスに転じている。なかでも12月にスギ正角KD材のプラス幅が大きくなっているのが目立つ。

外材も若干のプラスないし±0であり、とくに北洋アカマツタルキのプラス幅が大きいが、2月にはマイナスに転じている。WW集成管柱は1、2月のマイナス幅が大きくなっている。

合板は、型枠合板、針葉樹合板とも前回同様、マイナス基調である。